



暑い暑いと言っていた夏が終わりやっと秋の声が・・・
 と思っていたらあっという間に木枯らしの冬。
 本当に一年があっという間です。
 今年は特に日本にとって試練の年でした。
 来年が少しでも良い年でありますように・・・と
 祈らずにはられません。

十七文字の抒情詩

今回もうさおさんと健さんより投句いただきました。
 まずうさおさんの句を拝見します。

水がぶり金魚のように熱帯夜

金魚と熱帯夜、一つの句に二つの季語はもったいないな・・・
 と思います。でも面白い。

*水かぶる人魚となりて熱帯夜

蒸す夜が帰宅の足にまといつく

こちらは季語がありません、季語を使うとはつきりしますよ。

*熱帯夜が帰宅の足にまといつく

深更の湯音ひそめて茹だる夏

茹る夏と言わなくても読みてには充分わかります。

*仕舞い湯の音を潜めて夏の夜

辞めてやる時もあるんだ暑き夜

あるんだ・・・というのが少し気になります。

*辞めてやると声にも出して暑き夜

舌を出す暑さもあるさ柴犬君

この句も暑さもあるさ・・・と口語体です。

悪くはないのですが文語体にするとは俳句らしくなりますよ。

*柴犬の桃色の舌暑さかな



うさおさん、早く投句をいただきありがとうございました。
 まだまだ暑い時期の投句だった為にすべて夏の句になっています。
 掲載が冬になって申し訳ありませんでした。
 俳句は季の先取り・・・まだ暑い時期から秋を詠む。
 秋の気持ちの良い時期にはすでに初冬の景色に目をやる。
 そういった事も必要なのです。
 うさおさんの句は本当に面白いです。
 句の中に潜む感性の良さを感じます。
 目の付けどころもとても良いのです。
 俳句には俳偕味も必要で、うさおさんの句には充分にその要素が
 あると思います。後はほんの少しの詩情があればもっともっと
 良くなると思うのです。



続いて健さんの句です。

秋麗祝ひに贈る銀の匙

ご出産のお祝いに銀のスプーンだなんておしゃれですね。
 季語でご両親の喜びや健やかな赤ちゃんの姿まで見えてきます。

秋深む鎌倉に入る切通し

鎌倉には七つの切通しがあるのですね。切通しを通して
 鎌倉に入る。それだけの事を言っているのですが
 心に沁みる句です。季語の使い方もお上手です。

身に沁むや都市の模型の無表情

都市の模型に目をつけられたのがまず素晴らしいです。
季語も効果的に使われていますね。

立て看の傾いでをりぬ今朝の冬

立て看板が傾いている所に冬の寒さを感じる感性が良いです。
立冬のまだ柔らかな寒さですね。
字余りにはなりますが、立て看板ときちんと言われた方が良いでしょう。

* 立て看板の傾いでをりぬ今朝の冬

灯台と鳥居を洗ふ冬の波

写生句で良いと思いますが、波が洗うのは灯台と鳥居だけではないという事でも・・・と
使い、読んだ時のリズムを良くしましょう。

* 灯台も鳥居も洗ひ冬の波

健さん、ますます俳句の腕が上がっていますね。毎日詠まれているのでしょうか。
特に健さんの季語の選び方は素晴らしいと思います。
俳句は写生が基本ですが、季語の力によって何倍も魅力ある句になると思うのです。
どの季語を使うか・・・それがその句をより良いものにする決め手だと思います。

今回は投句時期によって夏の季語と冬の季語となってしまいました。
あと1カ月半もすれば新しい年がやってきます。
皆様にとって良い年でありますように・・・

食い初めの食器ふーさん小鳥来る

秋うらら猫三様に寛ぎぬ